



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年5月1日

5月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

子供も大人も Well-being を実現するために

校長 加藤 貴嗣

喜沢小学校では、誰一人取り残されることなく、一人一人の多様なWell-beingを実現することを目指しています。

Well-beingとは、well（よい）とbeing（状態）からなる言葉で、世界保健機構では「個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される」と紹介しています。

それぞれのWell-being、「人生への幸福感や満足感」「生活への自己評価」「うれしい、楽しいなどの感情」は十人十色です。また、個人のWell-beingも今日と明日では違っているかもしれません。Well-beingを実現するためには、一人一人が「自分にとってよい人生とは？」「自分は今どんな気持ちだろう？」ということを考えていくことが大切です。

そして、その土台となる力を育んでいくことが大切です。

ところで、皆さまはお子さんにどのような力を身に付けてもらいたいとお考えでしょうか。子供たちに身に付けたい力として、「主体性」「自主性」という二つの言葉があげられます。この二つの言葉は似て非なるもので意味が違います。皆さまは、「主体性」と「自主性」、どのようにとらえているのでしょうか。

「自主性」とは、「他人から指示されなくても、与えられた課題や指示に対して、自ら進んで行うこと。目標が設定されている、または、誰かが決めた範囲内で、自ら率先して行動する態度」のことです。

「主体性」とは、「自ら課題を見つけ、判断して行動し、責任をもつ。自分の意思で目標を設定し、行動を起こし、その結果に責任をもつ」ことです。

主体性には自分の意思や判断が含まれていますが、自主性には自分の意思や判断は含まれていません。言われたことを、納得していなくても、または何も考えずに疑問を持たず、「イヤイヤ感」を持つことなく、言われたままに積極的に取り組む人と、自分の強みや弱みを自分の頭で考え、強みを伸ばし弱みを克服する方法を自ら考え、それを自分の責任のもとに行うことができる人とどちらの人を育てたいと思いますか。

私は、子供たちが20年後、30年後に幸せに暮らしていくには、主体性を育み持続可能な社会の創り手となることだと思います。そこで、今年度の喜沢小学校のキャッチコピーを「すべての子供と大人が「私は何をしに学校へ？」に答えることができる学校」として、誰もが当事者意識をもって主体的に学校生活を送ることができるようにと考えています。

また、自己肯定感を高めるために成功体験を言いますが、言われたことができた成功体験よりも、自分の意思や判断で行動してできた成功体験のほうが、より自己肯定感を高めることができるのではないのでしょうか。

学校でも御家庭でも、子供たちが「自分の意思で目標を設定し、行動を起こし、その結果に責任を持つ。」という経験を積んでいくことで、子供たちのよりよい成長につながるものと思います。どうぞよろしくお願いいたします。